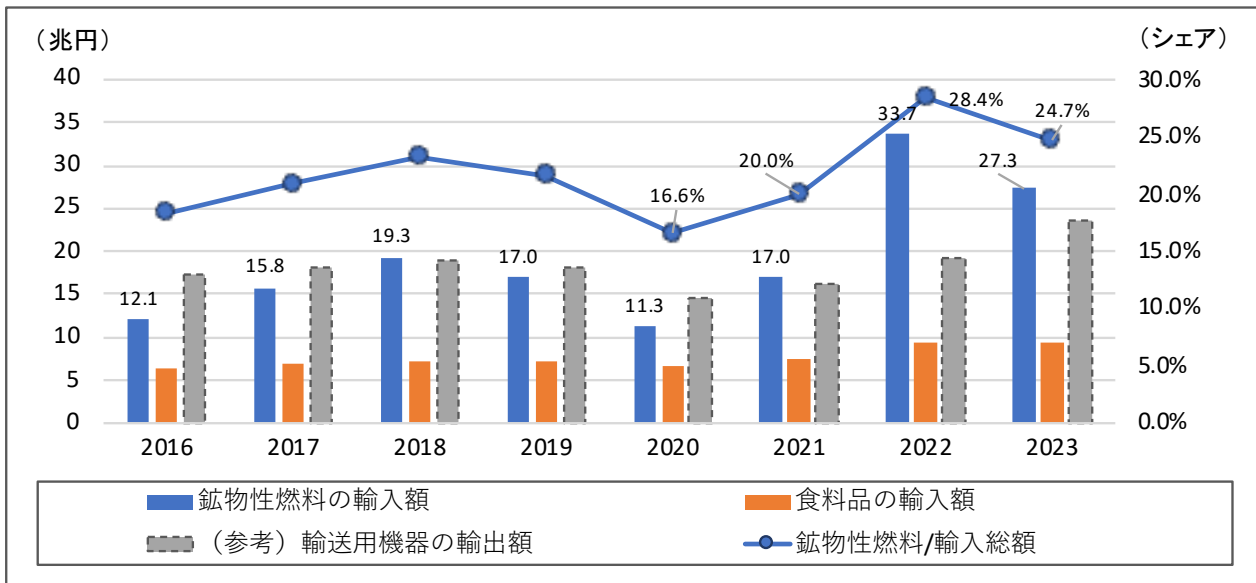


Ⅲ-2-⑤化石燃料の輸入額等とその在庫日数

2016年からの6年間、日本の全輸入金額は70～80兆円ほどですが、その内、鉱物性燃料(石炭、石油、天然ガスなど)は20%前後と、第1位のシェアを継続しています。これは、食料品の2倍以上の金額であり、また、日本の基幹産業である輸送用機器(自動車など)の輸出金額と同程度となっています。

なお、過去には石油の価格が147ドル/バレルにも急騰した時期(2008年)がありましたが、この時には輸入金額に占める鉱物性燃料の輸入が35%にも膨れ上がりました。

また、①2021年の初旬に、欧州では風が少なくて風力発電が減少したこと、夏には②中国でコロナ後の経済が急回復したこと、そして③2022年2月にはロシアのウクライナ侵攻により、欧州へのロシア産ガス輸出が急減したことなどで、化石エネルギーの市場価格がホップ・ステップ・ジャンプの急騰し、2022年の鉱物性燃料の輸入額は33.7兆円と急増しました。2023年は、原子力発電所の再稼働の増加に伴い、輸送用機器の輸出数量の減少やその価格の下落によって、金額で2割減少しました。



出典: 財務省貿易統計

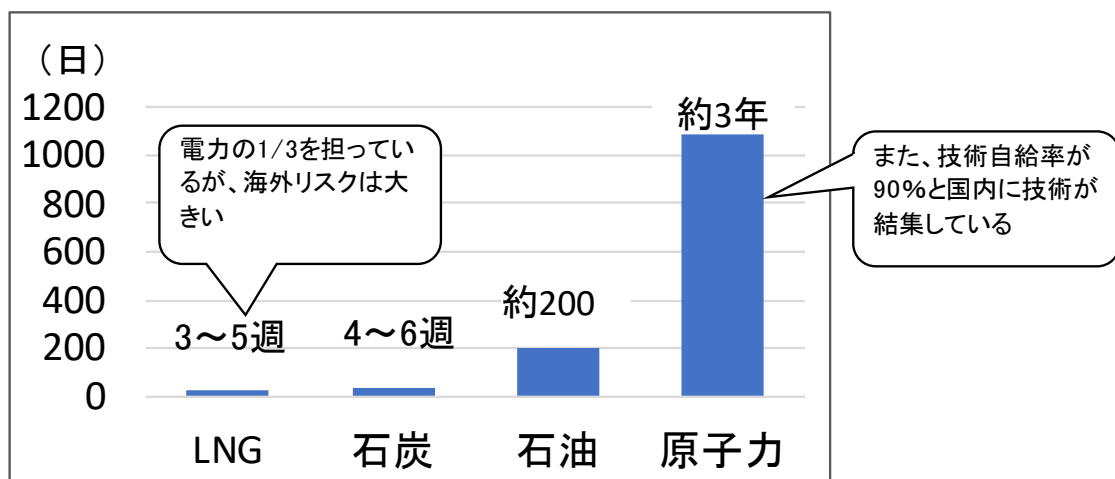
化石燃料の輸入額等とその割合の推移

資源の在庫は、石油・LPガスは法律で一定程度の備蓄があり、また、原子力は、炉内配置分だけでも相当の備蓄です。

一方、石炭、LNG、ウランに備蓄の義務はありません。

LNGは、**-162℃以下で保管**する必要があり、そのためエネルギーが必要であり、また、備蓄しても**1年程度で気化する**(第6次エネ基関連資料P59)こともあって**長期の在庫は困難**、という性質があります。

このようなLNGですが、**日本の発電では最大の割合**を占めている現状です。



出典: 2024/7/8資源エネルギー庁基本政策分科会資料1 P67

エネルギー資源の国内在庫日数